

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開および委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 22 年度 第 1 回高松市地球温暖化対策実行計画推進協議会
開 催 日 時	平成 22 年 8 月 5 日 (木) 10 時 00 分 ~ 12 時 00 分
開 催 場 所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	(1) 高松市地球温暖化対策実行計画 (案) について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上 記 理 由	
出 席 委 員	17 人
	嘉門会長, 熊副会長, 泉川委員, 井上委員, 片山委員, 勝浦委員, 河崎委員, 川原委員, 白井委員, 関委員, 田阪委員, 多田委員, 長坂委員, 野田委員, 古川委員, 山田委員, 横山委員
欠 席 委 員	1 人
傍 聴 者	なし (傍聴席: 10 席)
担 当 課 お よ び 連 絡 先	環境総務課地球温暖化対策室 (TEL 0 8 7 - 8 3 9 - 2 3 9 4)

審議経過および審議結果

協議会を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

次のとおり、協議会を開催した。

- (1) 高松市地球温暖化対策実行計画 (案) について
(事務局より説明)

以後審議

(委 員)

資料 2 について、地球の平均気温などのデータは、最新のものを使ってほしい。

(委 員)

26 ページに国・県・市の比較があるが、違う算定基準をもって算出しているのだから、比較対象とし、何%削減しようとするのはどうか。

(事務局)

割合については、以前の協議会の中で比較ができるものが欲しいという意見もあったため、掲載したものである。排出量については色々な推計方法があり、国・県・市で異なっているのだから、単純に比較はできない。ただ、本市の状況としては、産業部門の温室効果ガス排出量が少ないことから、例えば、県と高松市において、車 1 台当たりの平均排出量が同じだとしても、産業部門の排出量が少ないため、運輸部門など他部門の割合が増えてくる。ただ、高松市の特性としては、割合はこうなるというものを示しているため、この場合では、比較を出すのが適当であるのか、意味をなさないのかということ

審議経過および審議結果

になってくると思う。

(会 長)

市民の方が、おおよそ高松市は、どんな割合でCO₂を排出しているのかが分かっていたらいいのである。小数点以下は必要ないかもしれない。

(委 員)

運輸は移動があるので、運輸部門は県別や地域別は算定されていないということを聞いたことがあるが、そこをやろうとしているので、若干無理がある訳だが、全国市区町村自動車CO₂表示システムを使ったとなっている。そのシステムに全国数値を当てはめれば、全国の排出量と同じような数値になるのであれば、納得できる。

(事務局)

運輸部門については、従来はガソリンの販売量などから推計していたと思う。今回、国の策定マニュアルの中で推奨されているシステムを使用しており、そのシステムはOD調査を踏まえて作られているものである。そこに、高松市のデータを当てはめて算出している。全国レベルと整合性がどれだけとれているか、実態は分からないところがある。

(委 員)

2ページの中で、「現在のところ、地球温暖化対策の道筋は不透明であるものの」となっているが、社会的・物理的にどう変わっていくかが不透明なのか、国の政策が不透明なのか分からないので、書き方を考えてもらいたい。また、21ページの市民の意識の中でも、「現在の生活水準の維持を前提とした」とあるが、アンケート調査の中でこういう結果がでたのか、あるいは、こういうことが読み取れたのか。

(会 長)

2ページの「不透明」という部分については、地球温暖化対策基本法案が廃案になったことも含まれていると思う。

(委 員)

4章の中にすごいイメージを書いてあるが、これを市民におろすのか。

(事務局)

この協議会の中で、2050年を見越していく上では、2050年の姿が必要だろうという御意見があったため、先のことについてお示しすることは非常に難しいと思っているが、国が示しているものの中からピックアップして、このように記載している。

(委 員)

こういう姿を目指していこうと思うのであれば、この前に、今のエネルギー事情であるエネルギー自給率が4%しかないことや、化石燃料があと何年でなくなるというデータの方が、インパクトがある。それを見て気付くのが、市民だと思う。その後で目標が来たほうがいいので、そういったデータがほしい。

(会 長)

38ページでは、15%の削減量にはならないが、これは15%のうちの何%か。どういう計算になっているのか。これだけで達成できるのかと思わないのか。

(事務局)

38ページで示しているものは、「主なもの」として示している。現実的には市の施策に

審議経過および審議結果

よって15%削減が実現可能かということは、非常に厳しいと思っているが、この協議会では当初から、できるだけ高い目標を掲げていくことが大事ということであり、社会全体の流れとして環境意識も高まってきている。車を買換えるときは次世代自動車の選択や、家電製品も買換えると自動的に省エネ製品になってくるので、そういったことも加味した上での15%としている。ここでは、15%分すべては記載していないが、積み上げをしている。

(会 長)

最大導入ケースの積み上げもあるのか。

(事務局)

積み上げはある。

(委 員)

52ページは15%になっているが、ここは38ページと同じデータに基づいているのか。

(事務局)

同じデータである。

(委 員)

なぜ分かれて記載されているのか分からないが、この関連が分かるようにしていただければ、今のように分からないと思われるようなこともないと思う。また、38ページの「主な削減効果」が基本施策のどこに入るのか分からないので、分かるようにしてもらいたい。

(事務局)

52ページについては「施策の削減効果」ということで、その前に施策を記載している。こういうことに取り組んでいけば削減効果があるということで、こちらに記載したが、似通った内容が場所を変えて配置されているのは分かりにくい部分もあるので、検討したい。

(委 員)

最後に重点プロジェクトとして、太陽光発電と自転車となっている。この2つをすれば、15%削減できると市民は思ってしまう。

(事務局)

このプロジェクトは若干時間軸がずれている。施策でも「コンパクトで低炭素な都市」は5年、10年で出来る話ではなく、長期的スパンで考えなければならない。自転車についても同様で、これをしたことによって、今すぐ何%削減できるかというのは、非常に難しい話である。本市の地域特性をいかした取組ということで記載しているので、表現を工夫したい。

(委 員)

重点プロジェクトは地域特性ということだが、民生業務部門からの排出量が多いということも地域特性である。そういったものに、重点的に対策を講じることはないのか。52ページを見ても、再生可能エネルギーで0.2%削減となっている。施策の中で、省エネ診断の紹介というものがあるので、その効果が大きいと思われる部分を目に見える形で出してほしいと思う。補助を出すとかそういった大きいことは今はできないと思うので、何らかの形でCO₂の表現があればいいと思う。

審議経過および審議結果

(委員)

52ページの環境負荷の少ないライフスタイル・事業活動の欄が、15%の内のほとんどを占めているが、重点プロジェクトとはリンクしていないので、その辺りから拾い出す必要があるのではないかと。そして、その積算がどうなっているのかを謳いこまないと納得できないと思う。ソーラー・エコシティと言っても、再生可能エネルギーで0.2%しかないのでは、どうなのかという気がする。

(会長)

民生家庭・業務部門からの排出量が多いので、ライフスタイル・考え方を変えていくことが必要だろう。

第8章の行動指針は身近な取組だけでいいのか。これはCO₂の削減にはならない。

(事務局)

身近な取組でどれだけ減らせるかとなると、微々たるものである。ただ、こういうことをしていったら、さらに意識が高まって、買い替えなどが促進されると思っている。

(委員)

全体に緑に対することが少ないと思う。暑いとき、皆さん日陰を探しているので、緑をもっと増やすことに関して重点プロジェクトに入れたらいいと思う。それでまた、私たちが緑を増やすことを実行することになればいいと思う。

(委員)

第8章で私たち市民が、どこまで何をすればいいのか分からない。環境家計簿と書かれてあるので、それを市民に普及させて、今、自分がどういうところでCO₂を出している、そこを減らしませんかというキャンペーンをやれば、かなり減ってくるのではないかと。

(2) その他

(事務局より今後のスケジュールの説明)

(事務局)

高松市地球温暖化対策実行計画(案)について、御意見等を委員皆様に配布した意見書に記入の上、送付いただきたい。

(会長)

本日の会議はこれをもって終了する。

以上